



インテリアデザイン研究室

Interior Design Lab.

大石 容一

OISHI, Yoichi / Professor

フィッシュ・ダンスから始まる元町 — 街の景観をつくるインテリア —

Motomachi starting with fish dance : Interior creates cityscape

神戸港開港153年。海と山に囲まれた元町は、かつて鯉川筋（メリケンロード）を中心に栄えていた。しかし現在の元町は、国道2号線と海側に存在する阪神高速によって街の景観が分断され、人の流れが途切れてしまっている。そのため街から港への繋がりが感じられず、元町全体としての賑わいを失いつつある。

そこで、神戸港開港120年を記念してメリケン波止場につくられた巨大オブジェ「フィッシュ・ダンス」を起点として、鯉川筋周辺にインテリアを中心としたショールームやショップを点在させ、街から港までの景観や人の流れを繋ぐ計画を提案する。旧居留地や中華街、カフェ、百貨店、ファッションストリートなど様々な食文化やファッション文化が根付いている元町に、インテリアに触れて楽しむことができる空間を加え、さらに魅力ある衣食住の発信地となることを目指す。



岡 佑奈
OKA, Yuna

家事をまちに — インテリアが繋ぐ商店街 —

Housework in town : Shopping street connected by interior



「家事」生活のために誰もが必ず行うこと。それは家庭で行う日常。その家事が人を家に閉じ込めてしまっているのではないかと...

その家事を「外」で行うことで、人々はより自然な人との繋がりを形成し、なにより楽しく日々を過ごせるのではないかと考えた。

そこで、家事の中で、料理の研究から掃除や洗濯の相談まで、様々な暮らしの中で生かされるテクニックや材料の情報を共有し合える商店街の提案である。

計画地は梅田にほど近い中津商店街。車が通行できない狭い路地であり、永きに渡って培われた文化が共有し合うこの商店街で、生活することへ意欲を喚起し、楽しい暮らしを提供できればと考えた。

冠 花音

KANMURI, Kanon



多 他 — 食と空間による新たなサービスの提案 —

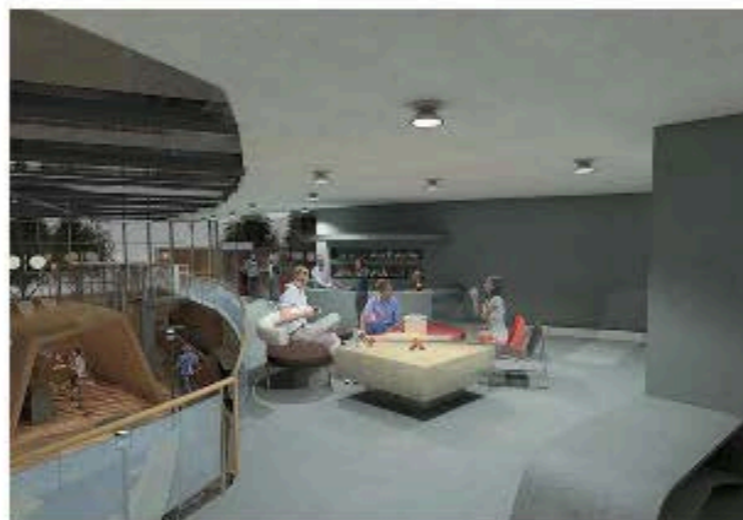
Tata : Proposal of new services by food and space

「課題をしたいが、家じゃ集中できない」

「レストランで長時間過ごすのは気が引ける」

そのような経験をしたことはありますか?このような既存の問題や、COVID-19によるリモートワークの増加や外出の減少などにより、空間に求める理想が高まったり、レストランの利用が減少しています。

多くの人が他の人とは求めるものが違います。それらを「食」と「空間」の点で応えることができる新たなレストランのスタイルを提案します。食を媒介とし、イベントを開催したり、人の動きを生みだし、「人與人」「人と空間」のつながりを強くする場にできると考えました。そのために、人が流れて動けるような導線を計画し、「娯楽」「ビジネス」や「open」「closed」、多種多様なスタイルの部屋を作り出せるよう、心がけデザインしました。このレストランを多くの人にとって居心地よく、繰り返し利用したくなるサードプレイスとなればと考えています。



張 承軒

CHO, Syoken

舟 de おでかけ — 水辺の景観をつくるインテリア —

ODEKAKE by boat : Interior creates waterside



みなさん、休日に一日友達と外出をする時、何をしますか？

例えばカフェに行くとき。そのカフェがどこにあるかより、どんなものが食べられるのかを先に考えるはず。場所よりそこで「何を体験するか」の需要が高まっています。

約500年前に豊臣秀吉が大阪に都を移し、浜を川に整備して貿易の町として発展させて以来、水とともに楽しむ大阪ならではの文化が今でも受け継がれています。特に道頓堀では浄瑠璃や歌舞伎の文化が川沿いに立ち並び、今でもお祭りのような賑わいがあります。

今回の計画地は現在も再開発が進む中之島にあり、天神橋筋商店街にも繋がる菅原町に設定しました。時代を超えて川の賑わいを活かした娯楽や物流の文化を再発見する新たなエンターテインメント施設を提案します。

伊根の舟屋や先斗町をイメージした個室の料理屋と、ガラス張りの開放的なレストランの2種類を設けました。

中村 日菜子
NAKAMURA, Hinako



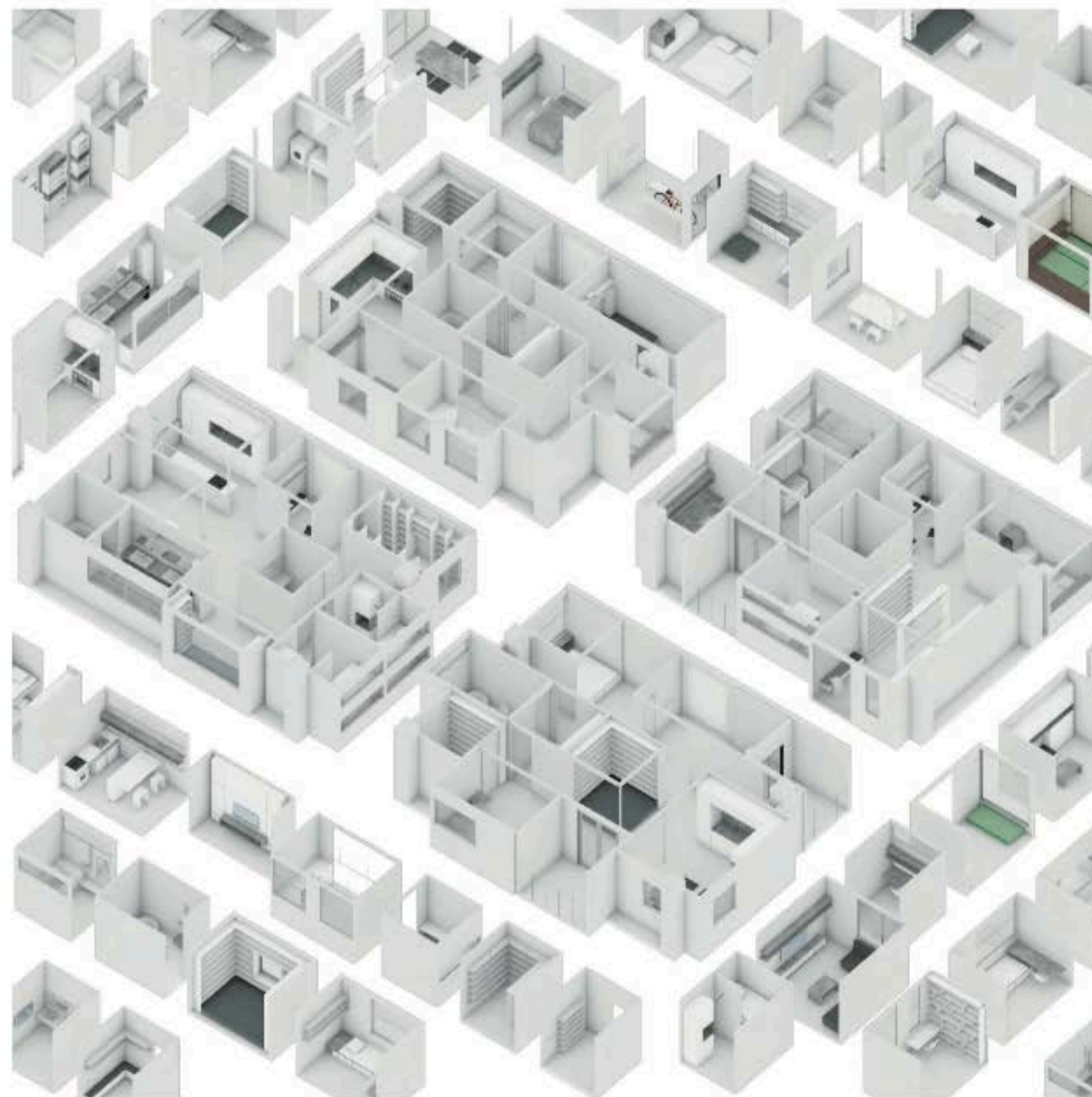
Make a Good Living — インテリアプロダクトによって構成されるユニット型住宅の提案 —

Make a Good Living : New types of housing unit consisting of interior products

絶えず変化する現代社会において、価値観の多様化が進み、多くの人々が「自分らしさ」を求める傾向が高まっている。そんな時代の嗜好性に応えるべく、住宅の編集権を住人に与えることを可能とした新たなユニット型集合住宅を提案する。

また、住宅購入における一連の流れをインターネット上で行える新たなサービスの実現も重要なポイントであり、ユニット化されたインテリアプロダクトをフレキシブルに構成することができ、無数のインテリアエレメントの中から自由に選択し、理想のライフスタイルを実現することを目指している。

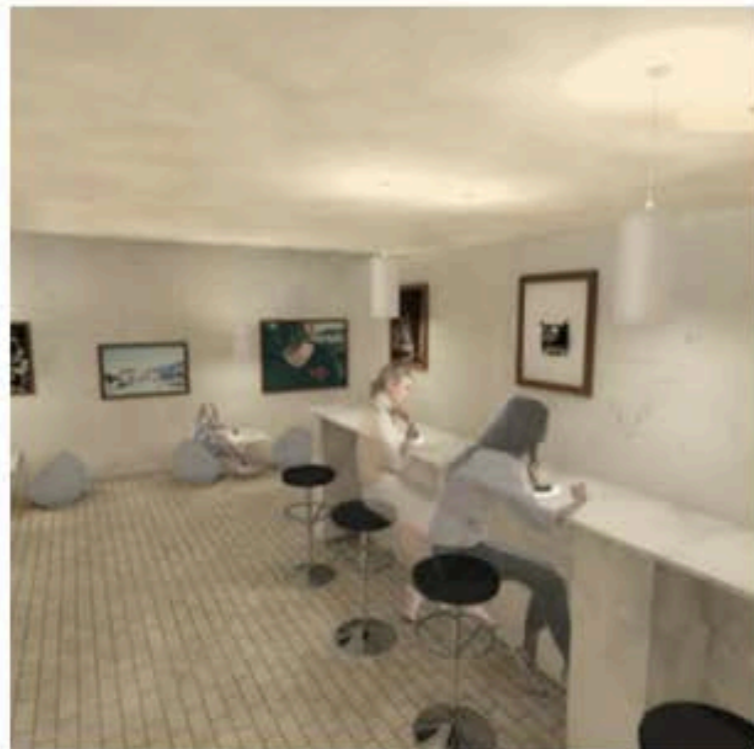
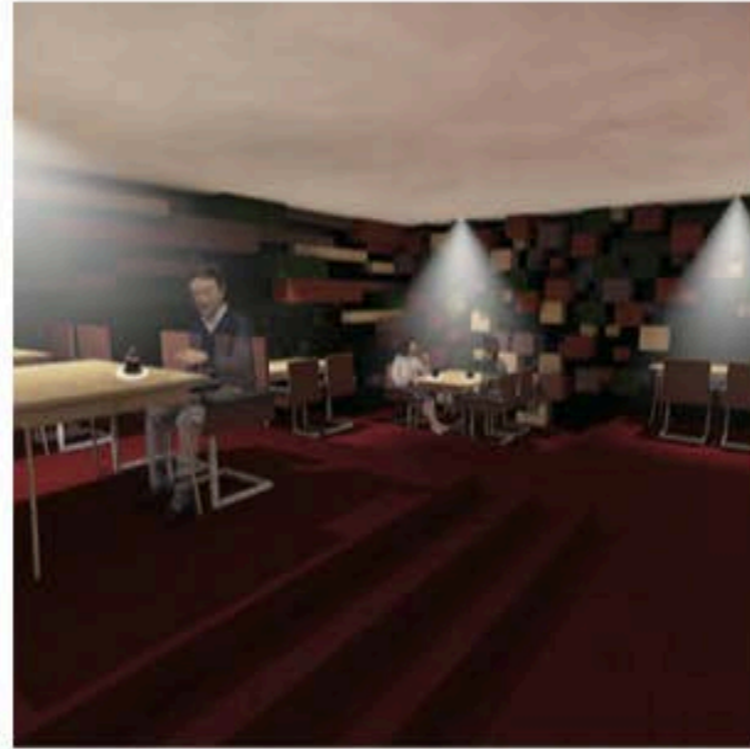
生産・施工においては、規格化されたプレファブリックユニットを生産工場から現場へ運搬し、既に建設された鉄骨造建築に接続すると云った、至って単純化した工程を実現することで、短期間で高性能な住宅を完成させることを可能とする。



真鍋 誠也
MANABE, Masaya

Feeling Cafe —感情を体感できるインテリア—

Feeling Cafe : Interior design for experiencing feelings



あなたの喜怒哀楽は何色で表されますか？

“Feeling Cafe”は、喜・怒・哀・楽の4つの感情それぞれをテーマ化し、それぞれの感情を体感しながらスイーツを味わえるコンセプトカフェです。

そもそもコンセプトカフェとは、特定のテーマを取り入れて全面的に押し出すことで、一般的なカフェとの差別化が図られたカフェを指します。例えば、あるキャラクターをテーマとしたカフェ——そのカフェに一步入れば、そのキャラクターの世界観に入り込むことができ、その空間での時間や食べ物を満喫できます。

このように、コンセプトカフェは既に形のあるものとカフェを融合させたものが多いですが、この研究では、「感情」という形として目に見えない身近なものを、色と形、素材によって表現しました。

“Feeling Cafe”を訪れたあなたはきっと、ふと嬉しくなったり、ふと怒りの気持ちがこみ上げたり、ふと悲しくなったり、ふとわくわくしたり……そんな不思議が体験ができることでしょう。

薮井 あおい

YABUI, Aoi



街角オフィス — 新しい働き方の提案 —

Street corner office : Proposal of new work style

現代社会において、一番ストレスを感じる空間は、満員電車での通勤通学ではないだろうか。電車と言う箱の中に閉じ込められ、見知らぬ人達に押し潰され、座る事もままならないのは、人として異常な状況だと思う。しかし、通勤通学のためには、満員電車に乗らなければならない。理由はオフィスが都市に集中しているためである。

2021年現在において、テクノロジーの発展や、新型コロナウイルスの影響により、テレワークなどの働き方が増加し、自宅やカフェで働く人も増えているが、働くための環境が整っているとは言えない。それらの課題を解決するため「街角オフィス」を提案する。

「街角オフィス」は小さな働くための箱が集まっており、パーソナルスペースの守られた空間となっている。「街角オフィス」を、主要路線の乗換駅などに設計する事で、都市に行かなくても働く事ができ、自宅やカフェとは異なる働くための空間が生まれる。

新しい働き方「街角オフィス」の提案。



渡辺 大登

WATANABE, Taito